

2009年、2月、岩手にある「るんびにい美術館」にて開催された「Art Galaxy ~星の祝宴」に参加させて頂いた僕たちは金曜の業務を終えたその足で車に飛び乗り岩手に向かって走り出した。

何の情報も収集せず、雪の怖さも凍てつく寒さも想像せず…ただ1000キロ先にある作品と人に会いたくて…

翌朝9時を回った頃だった、心地よい疲労感と達成感が混じり合う中「走り続ければ必ず目的地に着くのだ。」その思いが想像から実感へと変わった。

るんびにい美術館見学という当初の目的を無事達成した僕たちは果てしない帰り道から気をそらし至福の時間を過ごしていた。実はこの日、幸運にも同時に実感できたことがもう一つあった。「動きだせばきっと何かに出会い感じ、可能性は広がる。」偶然にも、同時期に開催されていた「13回いわて・きららアートコレクション」を見ることが出来たのだ。岩手県は今、日本が世界に誇る障がいのあるアーティストが最も多く輩出されている県である。僕は芸術的な事は何も分からない、でもきっと楽しい作品や変わった作品に出会えるのだろうなと期待せずにはいられなかった。

会場に入った時の感動の大きさは今も忘れない。真っ先に僕の心を動かしたのは関わる人たちの愛情の大きさと互いを思いやる尊厳の深さだった。素晴らしい作品がこんなにもたくさん集まる事の驚き、その一つ一つの作品が大切に扱われ相応しい空間が作り出されていること、展覧会としてのクオリティはもちろん、それだけではない作品から伝わる作家と携わる人々の信頼からなる豊かな日常生活や、楽しい毎日が会場に集約されていたのだ。いつも優しく見守られ、どんな小さな事も励まされ、ありのままを認められ許される。自分らしさがお互いに大切にされている安心感漂うこの場所は、どれほど気持ちよかったことか。

なぜ今、岩手からこんなにも多くの作家や作品が生まれるのか…僕はその答えが分かった気がした。そしてこの展覧会の果たす役割と偉大さをあらためて確信した。きららアートで出会う作家、作品、そして、きららアートに関わる人々の真の人間性や生きる様は、きっと私たちが生きる上で大切な事とは何かを教えてくれる。全国でこんな取り組みがなされたらどれだけ多くの人々に幸せが舞い降りるだろう。

世界中で素晴らしいと絶賛される展覧会は数多い。僕は芸術の事はよく分からない。でもその前に一回岩手を見ろよ！その夜、居酒屋で豪語していた自分に今も偽りは無い。

きららアートがこれからも変わらず走り続けますように。その目的地には全ての人々の命輝く素晴らしい世界が広がる気がしてなりません。

山下 完和

